



優駿会同窓会会報

獣医・畜産・応用動物 同窓会（関連講座含む）

H27.6

（1） ヤンソン先生没後 100 年記念事業の報告

平成 26 年 11 月 22 日（土）、晩秋にしては暖かな天候にも恵まれ、優駿会主催、日本獣医学会共催のもと、ヤンソン先生没後 100 年記念事業が農学部キャンパス内、食の安全研究センター中島記念ホールにて開催された。特筆すべきことは、ヨハネス・ルービツヒ・ヤンソン先生の孫にあたるロバート・H・ヤンソン氏ご夫妻とヤンソン夫人のご親族にあたる三ッ森様、本石様にもご参列いただいたことである。ヤンソン先生の御子孫の居住については以前より調査していたが、結局判らず諦めていた。ところが、北海道大学獣医学部生理学研究室の坂本健太郎先生から、坂本先生の親類にヤンソン夫人の親族にあたる方がおられると御連絡を頂き、本石様と三ッ森様に記念事業直前になってお会いする機会を得た。そして最終的には一度は諦めていたヤンソン先生の孫にあたるロバートヤンソン氏にも除幕式に参列頂く運びとなった。



ヤンソン先生像を前に親族の記念撮影
中央がロバート・H・ヤンソン夫妻。右のお二人が三ッ森様、左のお二人が本石様

記念事業は、ヤンソン氏像の除幕式と記念講演会の 2 部制とし、除幕式ではヤンソン氏のご親族の方に加え、古谷農学生命科学研究科長をはじめとする大学関係者や動物医療センター関係者らにより除幕による銅像のお披露目を行った。



動物医療センター玄関口に移設されたヤンソン先生像

第 2 部の講演会では、下記のプログラムのとおり、ヤンソン先生の生涯、東京大学動物医療センターの歴史、現状と未来について、それぞれ中山先生、辻本先生、長谷川先生にご講演頂いた。



講演会の模様はビデオ収録し優駿会事務局にて除幕式典での写真と共に保存している。今後は、優駿会幹事が年 1 回は

ヤンソン氏像にワックスがけをすることにしたが、これからは現教員や学生・院生たちが動物病院入り口で常にヤンソン先生の像と対面しつつ教育・研究に励むこととなった。

(2) 平成 26 年度 (2014 年度) 優駿会同窓会の報告

ヤンソン先生没後 100 年記念事業に引き続き、優駿会同窓会が開催された。一昨年より優駿会同窓会を、より同窓生の情報交換の場として積極的に活用していくことが企画され、今年も同窓生による講演会が企画された。ご講演頂いた同窓生はカナダ在住の平澤夫妻、医科研の川口教授、実験動物学研究室の角田准教授である。男女からみた海外研究事情、医学部からみた獣医学専攻の東京大学の中での活路など、それぞれの研究内容以外にも興味ある発表がなされた。各講演者には同窓会より感謝の意を表して、ヤンソン賞が授与された。

講演会終了後、食の安全研究センターエントランスホールにて、ケータリングと飲み物による立食パーティーが開催され、世代を超えた交流がなされた。来年度以降、在籍中の学生や院生、若い世代の多くの同窓生の参加が期待される。



ヤンソン賞講演会の模様



そろって会場からの質問に対応するカナダ在住の平澤夫妻。

ヤンソン先生没後 100 年記念事業

日時：平成 26 年 11 月 22 日 (土)

13 時 30 分—15 時半

場所：東京大学農学部 フードサイエンス棟 中島董一郎記念ホール

プログラム：

ヤンソン先生像除幕式 式典 (動物医療センター玄関前)

- 1) 開会宣言 (同窓会幹事：堀准教授)
- 2) 同窓会会長挨拶 (会長：塩田教授)
- 3) 除幕 (ならびに記念撮影)
- 4) 来賓の挨拶 (古谷研究科長) (中山日本獣医学会理事長) (前多獣医学専攻長)
- 5) ご親族謝辞 (ロバート・H・ヤンソン様)

6) 閉会宣言（同窓会幹事：堀准教授）

ヤンソン先生没後 100 年記念公開シンポジウム（参加費無料）

- 1) ヨハネス・ルードビッヒ・ヤンソン先生の一生（中山裕之、東京大学教授）
- 2) 東京大学動物医療センターの現状と未来（辻本元、東京大学動物医療センター長）
- 3) 東京大学家畜病院 動物医療センターの歴史（長谷川篤彦、東京大学名誉教授）

H26 年度 優駿会同窓会

日時：平成 26 年 11 月 22 日（土）

15 時 45 分—19 時半

場所：東京大学農学部 フードサイエンス棟 中島董一郎記念ホール

プログラム：

ヤンソン賞受賞講演会

- 1) 平澤健介 (Associate Professor of Immunology, Division of Basic Medical Sciences, Faculty of Medicine, Memorial University of Newfoundland, Canada)

『カナダ地方大学で基礎研究を行う意義と現状』

（講演内容）実験動物学教室にて博士を取得後、カナダに渡り7年間のポストドクの後、カナダの東端のニューファンドランド州にあるメモリアル大学医学部で独立。ウイルスを使ったがん治療の研究を中心に、研究室員3-5人の大きさの研究室を10年間にわたり運営する。我々の近年の研究成果を交えながら、研究室運営の実情、カナダ国内での基礎医学研究情勢の推移などについて話したい。

- 2) 平澤（佐野）みちる (Professor of Neuroscience, Division of Basic Medical Sciences, Faculty of Medicine, Memorial University of Newfoundland, Canada)

『北米における女性科学者としての独立のすすめ』

（講演内容）カナダで17年、恒常性を司る脳部位がどのように食事や睡眠、温度などの変化に反応するかを解析してきた。本会では自身の経験を元に、女性・移民として研究活動を行う利点・欠点など、歴史や社会構造などを踏まえて考察する。これを機に、獣医学領域での更なる女性研究者躍進に期待したい。

- 3) 角田 茂 (獣医学専攻 実験動物学研究室 准教授)

『遺伝子改変マウスの作製・バイオリソース化とサイトカインの機能解析』

（講演内容）発生工学を基本技術として遺伝子改変マウスを用いたサイトカインの生理機能の解析を行う一方で、これらのマウスを貴重な“バイオリソース”と位置づけ研究支援を行ってきた。これまでの成果を紹介するとともに、今後の展開について議論したい。

- 4) 川口 寧 (東京大学 医科学研究所・教授)

『ヘルペスウイルスの病態発現の分子基盤とその応用』

（講演内容）我々は、様々な生物種に感染し病態を引き起こすヘルペスウイルス群の中で、最も研究が進んでおり、その研究成果が多くのヘルペスウイルスに効率的にフィードバックされている単純ヘルペスウイルスをモデルとして研究を推進している。本会では、我々の研究を紹介すると共に、外から見た本学・獣医学科に対する期待や雑感などを述べたい。

懇親会（フードサイエンス棟エントランスホールにて）

＝編集後記＝

東京大学教員定年延長により退職教授が数年なく、塩田会長・堀幹事のペアで3年間同窓会を運営した。この間、同窓生の交流の場として優駿会同窓会を活性化するために様々な企画を実施した。初年度は牧場でのBBQツアー、次年度と本年度は女性同窓生、海外で活躍する同窓生などを招待して新たにヤンソン賞講演会をスタートさせた。3年目にはヤンソン氏像を動物病院玄関口に移設し、ヤンソン先生没後100年記念事業も開催した。まだまだ、学生・院生も含めて若い同窓生の参加が少なく、来年度以降さらに新しい企画を考え同窓会のより一層の活性化を進めて欲しい。また、今回の同窓会で優駿会女性同窓生の会（仮称）が新たに設置され、H27年度以降、優駿会としても全面的にこの女性同窓生ネットワーク活動をサポートしていくこととなった。

H26年度は3年ぶりに同窓会名簿の改定も行い、希望する同窓生には有料で配布した。最近、紙媒体の名簿への掲載拒否者が多く、資金もかかることから、今後、同窓会名簿のあり方や、運営や同窓生への通信におけるITの活用、年会費の納入率の向上など、経済性も含めて効率的な同窓会運営法を考えて行かねばならないと痛感した。

この三年間至らない点も多々ありましたが、新しい同窓会のあり方ある程度は打ち出すことができたとも感じている。後は、抱えている問題点の解決も含めて次の幹事に頑張って欲しい。
(獣医薬理学研究室
准教授 堀 正敏)

教室員によるヤンソン像の
ワックスがけ
見違えるほどきれいになった

